
Human's Disease

檀 敬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

H u m a n ' s D i s e a s e

【Nコード】

N 1 7 8 2 D

【作者名】

檀 敬

【あらすじ】

ミシエルは、地球を実験場として、生物の進化を調べていた。その実験経過を教授達に報告していた。人類は特殊な生物で、宇宙の規範から逸脱していた。絶滅プログラムを開始するが旨くない。不安なミシエルは教授に泣き付いた。だが、教授は「大したことはない」という。

「それでは、次の報告を」

真っ白な口髭をためた初老の男が、若い女性研究員を促した。

「ミシエル君、地球だったかな」

「その報告をしてくれたまえ」

ミシエルと呼ばれた、髪が長く眼鏡を掛けた女性が、演台に向い、ファイルを開いた。

「USN35027の報告をいたします」

「現星で『地球』と呼ばれている惑星です」

ミシエルは淡々と報告していった。

「『人類』と呼ばれる2足歩行生物が66億4千万」

「他の生物を圧倒しています」

「これは、現星時間で100年ほどでの変化です」

「さらに人類は、地球環境を変化させています」

「それは、自分達にとって居住不可な状態への変化です」

「我々はこの状態を阻止すべく、対策を打ちました」

ミシエルは一息入れた。

初老の男と同席している数名の老人達は、溜息をつきながら、ぼやいた。

「やれやれ、困った生物がいたものじゃ」

「攻撃的な素質があるんでしょうかね？」

「いやー、自分の首を絞めるとは恐ろしい」

ミシエルは、報告を続けた。

「我々は、人類の自浄能力が欠如していると予想で」

「人類の人口増加が原因という仮定で」

「人口を減少させる対策を開始しました」

ミシエルは、ページをめくった。

「第一段階として、ペスト菌を放出しました」

「ですが、対策は一時的なものでした」

「第2弾は、インフルエンザウイルスの放出でした」

「現在でも若干効力が残っていますが、一時的でした」

「3つ目は偶然でしたが、戦争という自浄が起きました」

「しかし、自浄されるべき人類の淘汰ではありませんでした」

ミシエルは、更にページをめくった。

老人達は、感想を漏らした。

「いけませんな、これは」

「ええ、まったくです」

ミシエルは続けた。

「我々は、30年ほど前にエイズウイルスを放出しました」

「同時に、サルの一部にエボラウイルスも放出しました」

「時間差で効果を上げようとした」

「ですが、残念ながら十分な結果は得られていません」

「現在も効果は残っていますが、予想される効果は低いです」

ミシエルは、顔を上げて席上を見回した。

「ですが人類も、前時代の恐竜のように」

「種としての限界を示す証拠が出てきました」

老人達から声上がり、表情が柔らかくなった。

「おお、それは、それは」

「よい傾向ですな」

ミシエルは、静まるのを待って報告を続けた。

「癌化率の上昇と癌化細胞の量的増加が挙げられます」

「これは、遺伝子の飽和を示していると思われるので」

「明らかに限界が見えていると結論付けできます」

「そして、自らの環境汚染による影響です」

「現在の地球は、空、海、陸、全域に汚染が進んでいます」

「この影響が人類に大きく作用していると思われます」

「そして、疾病率の増加と奇形様状態の出生増加」

「これらも、種としての限界を指標するものです」

老人達は、安堵の表情を見せた。

しかし、ミシエルはキツとなって次の報告をした。

「しかし、人類は人為的生殖によって」

「そのバリエーションを増やそうとしています」

老人達に、どよめきが走った。

「な、なんと！」

「恐ろしいことじゃ」

ミシエルは、尚も報告を続けた。

「非常に確率の低い生態系が地球には存在しています」

「廃棄や処分、実験中止の方策も考えられますが」

「我々観察実験スタッフとしては、継続を切望するものです」

ミシエルはファイルを閉じた。

「以上で、報告を終わります」

真っ白な口髭をためた初老の男が、

ミシエルに声を掛けた。

「報告をありがとう」

「だが、継続かどうか、審議は長引くかもしれん」

「審議の最中に、人類がどうなるか、だな」

ミシエルは、初老の男に頭を下げた。

「教授、ありがとうございます」

「ホントにそう思います」

去りかけた初老の男にミシエルは声を掛けた。

「先生！」

初老の男は振り返った。

「何だね？」

ミシエルは涙目で訴えた。

「ホントは怖いんです」

初老の男はウインクをした。

「遠い星のことだ」

「そんなに根を詰めないように」

ミシエルは、初老の男にそう言われて、
気持ちを切り替えた。

地球の将来は、彼女が握っていたのだ。

(後書き)

初めての投稿です。

読後感想をお聞かせいただければ、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1782d/>

Human's Disease

2011年10月4日15時34分発行